

研究可能テーマ

研究可能テーマ	研究指導者	受け入れ可能院生数
<p>(1)慢性腎臓病に関する臨床研究*</p> <p>約1500名の患者レジストリーをベースに、慢性腎臓病の進展に寄与する因子を抽出するとともに、治療介入による進展抑制の有無について解析する。また慢性腎臓病は心血管疾患の独立した危険因子であり、腎障害の進行に伴う心血管疾患の発症率と治療介入の影響を検討する。</p>	新田教授	1
<p>(2)透析患者の合併症、特に心血管合併症に関する研究*</p> <p>新規に透析治療へ導入される患者は年間1万人以上、透析で生命を維持している患者は30万人に達する。さまざまな原疾患により透析導入されるが、透析患者の生命予後は良好ではない。特に近年、「心腎連関」という発想から心血管合併症が予後不良因子として注目されている。大学病院で維持透析を行っている施設は数少なく、その特徴を生かして、透析患者の心血管合併症の観察研究ならびに介入研究を行う。</p>	新田教授	1
<p>(3)尿細管・間質障害に関わる分子に関する研究</p> <p>慢性腎臓病は、原疾患に関わらず、進行すると最終的には尿細管・間質障害が出現する（final common pathway）。近年、尿細管・間質障害に関わるさまざまな分子が発見され、その解析が行われている。その中でも、これまでの研究で成果の上がっている老化に関わるKlothoやSphingosinなどの分子について、新たな機能解明や関連分子に関する研究を行う。</p>	土谷教授	1
<p>(4)腎炎の発症と進展の機序～免疫により発症する腎炎の進行についての実験的研究～</p> <p>糸球体腎炎は慢性腎臓病の原疾患として最も多い原発性腎疾患である。進行性の糸球体腎炎の多くでステロイドを含めた非特異的な免疫抑制治療が行われている。分子標的薬などの特異的治療を目指して、実験腎炎もしくは確立された細胞株を用いて、腎炎の進展に関わる因子（細胞周期や細胞内伝達物質、サイトカインなど）を細胞レベルもしくは分子レベルで解明する。</p>	内田教授	1
<p>(5)遺伝性腎疾患の新たな原因遺伝子の探求に関する研究</p> <p>多発性嚢胞腎、アルポート症候群、ファブリ病など、遺伝性腎疾患は少なくない。これらの原因分子はいずれも腎臓の構造や機能において重要な役割を果たしている。中には、原因分子が先に発見され、その後その分子機能が明らかになったものもある。家族性に尿異常や腎機能障害を認めるものの、既存の疾患に該当しない家系も多く存在する。患者の遺伝子異常の解析を次世代シーケンサーを用いて原因遺伝子を探求する。</p>	望月 特任教授	1

\*：医師免許取得者 対象